

農林水産業関連

1 たんかんの収穫開始。今年度産は豊作見込み

1月27日に徳之島町にて徳之島町柑橘生産組合主催のたんかんはさみ入れ式が開催され、生産者及び関係者30人が出席した。

徳之島町では約80haで栽培されており、今年度産は豊作傾向で、出荷量は350～400tの見込みである。今年度産の果実品質は、秋季の降水量が多く、11月上旬までの気温が平年より高かった影響により低糖・低酸傾向であるが、着果量が多い割に果実肥大は良好である。

農業普及課では、収穫後の早期の樹勢回復や整枝せん定などについて支援していく。



2 牛飼い塾で子牛，育成牛の見方を学ぶ

2月20日、徳之島中央家畜市場で営農推進本部畜産部会及び農業普及課主催の令和6年度第2回牛飼い塾を開催し、新規就農者14人を含む生産者及び関係者58人が出席した。

徳之島の繁殖雌牛頭数は昨年度末で約1.2万頭で、当市場の子牛取扱頭数は県内3位である。

本研修会は、産地の発展に向け、生産者全体の飼養管理技術の高位平準化を図るために開催し、和牛登録協会県支部から子牛・育成牛の見方、育成牛の栄養管理と繁殖成績を学んだ。活発な質疑応答で充実した会となった。



3 畑かんマイスターのほ場で現地検討会

2月12日に伊仙町で畑かんマイスター現地検討会が開催され、マイスターと関係者14人が出席した。

飼料畑での検討の際、液肥混入器を活用した実証計画の情報を提供し、マ

イスターからは、他品目での利用について多くの意見が出された。

今期は、さとうきび・ばれいしょとも生育期に少雨傾向だったため、畑かん整備ほ場との収量差が大きく、水利用の重要性を再認識できた。今後、実証データを整理し、畑かんの更なる推進に生かしていく。



4 トルコギキョウ現地検討会で自家育苗技術と生理障害対策を周知

1月31日に伊仙町及び天城町にてトルコギキョウ現地検討会を開催し、生産者、研修生及び関係者12人が出席した。

農業開発総合センター徳之島支場と天城町農業センターでは自家育苗の現地試験を行っており、自家育苗株の本ぽでの生育を確認し、育苗技術について情報提供した。また、今年度は生理障害やセンチウによる生育不良が多発しているため、土壌消毒や定植前後のかん水の重要性について周知した。



当課では、今後も巡回や研修会等で生産安定に向けた支援を行う。

5 島内産花きを用いたフラワーアレンジメント研修会を開催

伊仙町にて、フラワーアレンジメント研修会を開催し、小学生13人と関係者8人の計21人が参加した。

島内で生産されている花き及び生産者組織の活動について児童に紹介し、保護者へは資料を配布することで花きのPRを図った。島内産のトルコギキョウ、ソリダゴ、レザーリーフファンを用いてフラワーアレンジメントを行い、児童からは「綺麗な花を自由に挿すことができ、楽しかった」と好評であった。



今後も島民に向けた花きのPRと花き生産者組織の支援を継続する。

6 徳之島地域赤土新ばれいしょ「春一番」が力強く出発

2月1日、徳之島地域赤土新ばれいしょ「春一番」の出発式が伊仙町総合体育館にて開催され、生産者、市場、JA、関係機関など約300人が出席した。

今期の共販計画は徳之島全体で465haであり、共販達成目標は、出荷量1万t、販売額20億円を掲げた。

今年度は栽培生育期間中に降雨が少なく、出芽のばらつきや生育遅延が認められるなど厳しい状況であるが、病害防除や、ほ場での一次選果の徹底による高品質なばれいしょ出荷に向け、結束力を高めた。



農業普及課では引き続き、病害対策や肥大促進に向けて情報提供を行っていく。